

様式 4

令和 5 年度第 4 回 富士見市庁舎整備検討審議会					
議事録					
日 時	令和 6 年 1 月 18 日 (木)		開会	午後 3 時 0 0 分	
			閉会	午後 5 時 0 0 分	
場 所	富士見市役所 市長公室				
出席者	委 員	秋元委員	新井委員	安藤委員	石川委員
		欠	○	○	欠
		大久保委員	大塚委員	加藤委員	佐嶋委員
		○	○	○	○
		菅原委員	千々和委員	横山委員	吉野委員
		○	○	○	○
	事務局	総務部 古屋部長 新庁舎整備室 平澤室長、奥野副室長、鈴木主任、舎川主任、白崎主事			
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 1 名)				
議 題	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 富士見市新庁舎建設基本計画 (案) について (2) その他 4 事務連絡 5 閉 会				

議 事 内 容

事務局	1 開 会 開会の宣言、資料確認、委員の出席状況（10名出席、2名欠席）と会議成立、傍聴の状況（傍聴者1名）の報告を行った。
会 長	2 会長あいさつ 第4回審議会の開催に当たり、あいさつを行った。
会 長	3 議 事 （1）富士見市新庁舎建設基本計画（案）について 富士見市新庁舎建設基本計画（案）について事務局の説明を求めた。
事務局	資料（今後のスケジュール・本日の審議会の位置付け）及び資料1-1、資料1-2に基づき、富士見市新庁舎建設基本計画（案）等について説明した。
会 長	<以下、質疑・意見等> 今回示された基本計画（案）に対して、本日の審議会や説明会、パブリックコメントで出てきた意見を反映し、最終案を作成することになる。今回の審議はこれまでの総括的なものとなるため、各委員から意見や質問、感想等をいただきたい。
委 員	基本計画（案）を見てもまだ具体像が見えてこないと感じており、事業期間が長いため、審議会で議論した内容等が今後変わってしまうことがあるのではないかと不安ではあるが、まずは基本計画として形となったことに安心した。
委 員	地域金融機関としては、企業版ふるさと納税の活用を提案している。市内に本社のある企業は対象とならないが、支店や営業所を設置している企業の協力を得やすいと思われるので、参考にしていきたい。
委 員	基本計画（案）において、防災に関する内容にあまり触れられていないと感じる。市民を守ることが市役所の一つの役割である。令和6年能登半島地震の影響により、防災に対する関心が高まっているため、市民説明会においても防災に関する指摘があると思う。 整備してよかったと市民から言われる市役所機能を入れた方がよいと感じる。
事務局	令和6年能登半島地震については、本市からも職員1名が、埼玉県と県内自治体職員でつくる応援チームとして被災地に派遣されている。

	<p>る。その職員が戻ってきた際には、実情を庁内で共有することで、本市の防災について活かしたいと考えている。</p> <p>基本計画では、免震構造の採用を基本に検討することや、非常用発電の強化（新庁舎では72時間以上を確保）、災害対策本部機能や電気設備を想定浸水深より上部に配置すること等について記載する予定である。設計を進める中で、より具体的な内容が見えるようになると思っている。</p> <p>全体的な防災対策として、今後、防災備蓄倉庫機能を有した中央防災センターを市役所とは別に整備し、防災機能を強化することについて検討している。</p>
<p>委 員</p>	<p>別の災害対応施設として中央防災センターを設けることはよいと思う。洪水により庁舎が孤立し、新庁舎に防災機能を持たせても役に立たないおそれもある。災害時の通信機能の確保のため、災害時利用可能な衛星通信等のサービス導入を検討してほしい。</p> <p>バリアフリートイレの整備はよいが、効果的な配置により有効に活用されるとよいと考える。</p> <p>そのほか、以前の審議会でも申しあげたことだが、基本計画（案）における必要面積の算定について、現庁舎と比較して増加した項目と減少した項目の記載があるが、まだ決定した経緯、考えに関する説明が不足していると感じるため、補足資料を示してほしい。</p> <p>また、新庁舎整備事業は長期に及ぶ事業のため、事業進行中に庁内の人事異動があり、人員の入れ替わりが発生する可能性がある。そのため、今後の設計・施工を行う際に市側が相談しやすい専門家を確保することが必要と考える。基本計画の中においても、今後の検討事項や課題として記載してはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>規模算定の流れは、現状を調査した結果を基に必要面積を算出し、働き方の変化も考慮した上で新庁舎規模を約13,000㎡とした。その後、分館活用により約12,220㎡となった。他自治体の新庁舎規模算定の際も多く用いられる方法を取り、規模算定を行っている。ただし、規模算定の方法の中には執務環境調査を行った委託事業者の独自のノウハウもあるため、規模算定に当たっての経緯を全て公開することは難しい。各室の必要な面積は設計を行い合計した規模ではないため、詳細な面積は設計段階で決定することになる。基本計画の参考資料として、どこまで掲載するかは議論しているところである。</p>
<p>委 員</p>	<p>建物の構造について、免震構造を基本に検討することだが、建物の高さによって適切な構造は変わると思う。費用等を考慮して構造は決定した方がよい。</p> <p>パブリックコメントや市民説明会において、建設場所が現庁舎敷地であることや、事業費については特に質問があると思う。現庁舎は市</p>

	<p>域の中心ではあるが、人口分布から見た中心地ではないと思うため、敷地に対する回答を用意した方がよいと考える。</p> <p>事業費については、126億円は予想がつかない大きな額であるため、例えば、市民1人当たりの月の負担額を示すなど、市民に納得してもらう工夫が必要と考える。</p> <p>6.3(2)のゾーニング図に、閉庁時開放可能エリアとあるが、市民が夜の会議を行いたい場合でも使用可能なのか。</p> <p>p.31のワークスタイルコンセプトは庁内の職員で決定したものなのか。</p>
事務局	<p>構造について、基本計画(案)においては、免震構造が最もよいとしているが、設計段階で建設費も踏まえて決定するという内容にしている。</p> <p>ゾーニングについて、新庁舎では市民交流・連携エリア、来庁者エリア、執務エリアの3段階に分ける想定をしている。市民交流・連携エリアは閉庁時にも開放することを検討しており、土日祝日や夜間に市民が活用できるとよいと考えているが、確定事項ではない。今後、庁舎管理を行う部署と調整し、開放の是非や運用について検討したいと考えている。</p> <p>ワークスタイルコンセプトについては、将来を見据えた計画が大切であると考え、どのような働き方が適切かを若手職員が中心となって検討し、ワークスタイルコンセプトや行動指針を作成した。このように新庁舎のハード面の整備と合わせてソフト面の検討も進めることを予定している。</p>
委員	<p>再生可能エネルギーの活用とライフサイクルコストの低減は必ずしも両立できないのではないかと。自然環境への配慮は魅力的だが、長期的には負債になる可能性があるため、先進的なものを無理して導入する必要はないと考える。</p> <p>地震については免震構造により対応可能であると思うが、洪水により浸水した場合、防災機能は低下することとなる。高台に災害対応施設を整備する計画があるのであれば、基本計画にも記載した方がわかりやすいと思う。周辺施設との災害時の連携も記載されているが、水害時には周辺施設も庁舎と同様に浸水するため、機能しないことになる。また、階層構成において、可能な限り浸水しないための工夫を講じる等の記載があるが、これについては割り切った上で、浸水する前提での記載内容にした方がよいと考える。</p>
事務局	<p>環境配慮機能の記載内容である、①省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用等と②ライフサイクルコストの低減は必ずしもリンクするものとして記載しているわけではない。省エネルギー・創エネルギー</p>

	<p>一設備は導入することになるが、どこまで整備するのは検討する必要があると考えている。</p> <p>防災関連について、仮に荒川が氾濫する場合、気象情報を踏まえ、事前に準備する時間があるため、職員の体制整備や他施設との連携も行いつつ災害対応することが考えられる。</p> <p>また、小規模の水害が起こる可能性もあるため、新庁舎にも災害対策機能は必要であると考えており、基本計画の内容については、こうした考えのもとに記載している。</p>
<p>委員</p>	<p>いずれにしても、高台への整備を計画している中央防災センターについては、基本計画にも記載した方がよいと考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>中央防災センターは、現在、検討段階であり、内容について精査が必要な状態であることから、基本計画に記載することの是非は検討したい。仮に、基本計画に記載しない場合も、地域防災計画という別の計画の中に、災害対策については細かく示しているところである。その計画の中では、水害時に市役所が使用不能となった場合は鶴瀬公民館等を代替場所として、臨時の災害対策本部を設置することとしている。</p>
<p>委員</p>	<p>水路について、主に雨水が流れているということだが、諏訪地域から湧水も流れているという認識だった。これで間違いはないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>お見込みのとおりである。湧水のほか道路の側溝からの雨水も流れている。</p>
<p>委員</p>	<p>であれば、高台から流れてくる水量を調査し、水路の規模を検討する必要があると思う。</p> <p>また、震災の直後なので、防災面に関する関心が高い。この場所は、水害や液状化が懸念される土地と認識されていると思うので、1階に窓口機能やにぎわい機能を配置することに対しても市民から質問や意見があると思う。窓口機能は、窓口対応に必要な機器を設置することになると思うが、浸水することを前提とするという考え方なのかとの意見も想定できる。窓口機能の重要な機器が浸水しないように、1階をピロティにするような案を示さないと、市民が納得しないようにも感じる。</p> <p>災害時に避難してくる人がいると思うが、多目的スペースは浸水しない位置に整備しないのかとの意見も出てくると思う。</p> <p>駐車場について、現在は、土日祝日は閉鎖していると思うが、ららぽーと富士見の駐車場渋滞の問題があるため、新庁舎駐車場はコインパーキングとして、土日祝日の市民利用も可能にした方がよいのではないか。</p>

	<p>基本計画の中には、事業期間中に公園が使用できない可能性があることへの言及がないため、具体的に記載してほしい。</p> <p>水路については、雨水の流域面積に関しての調査を行う予定である。その結果を踏まえて、水路規模を決定する。</p> <p>新庁舎の2階以上は5mより高くすることを設計要件とする想定であり、業務用のノートパソコンなど、移動可能なものは洪水時に移動させるほか、資料もデジタル化が進むことが見込まれる。データについても今後、クラウド化が進むことが想定され、新庁舎に設置される機器も減少する見込みである。浸水しても必要最小限の被害で済むような設計を求めることとしたい。</p> <p>1階部分をピロティとする場合、現在の事業費に加えて、さらに十数億円もの事業費がかかる見込みである。また、事務局でピロティを設けた他自治体庁舎の視察を行ったところ、使い勝手が悪いという印象を受けており、日常の利便性の重要性も認識したところである。それらを総合的に判断した結果、1階に窓口機能を設けた上で、必要最小限の被害で抑えられるような運用としたいと考えている。</p> <p>駐車場については、現在もららぼーと富士見からの申請に基づき、可能な場合は開放している。また、現在、周辺の公共施設のイベント時には、庁舎を含めた施設間で駐車場を貸し借りしている関係性もあるため、駐車場有料化は庁舎整備とは別の議論として整理していく必要があると考える。</p> <p>事業期間中に公園が使用できない可能性があることについては、工事ヤードとして公園の一部を使用しないと建設ができない可能性が高い。新庁舎整備は長期間にわたる事業のため、公園の所管課とも調整し、工事期間中の公園の利用方法については検討していきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事業者の選定方法についての記載がないが、決定しているならば記載した方がよいのではないかと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>選定方法は決まっていないが、事務局内では検討を始めているところである。年度内を目途に庁内で整理したいと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>パブリックコメントを行うことで理想の庁舎に近づくとよい。令和6年能登半島地震の影響で、資材が北陸の復興支援に割かれると思われるが、事業費が増加しないことを願う。</p> <p>p.54の表5-5の合計駐車台数と、最終的なまとめの駐車台数の数値を統一した方がよいと考える。</p>
<p>副会長</p>	<p>事業費については、現在の概算事業費内で収められるように努める必要がある。駐車場台数について、基本計画における記載内容を変更</p>

<p>委員</p>	<p>するかどうかは持ち帰って検討したい。なお、詳細な台数は設計において決定することになる。</p> <p>(2) その他 データ保管に関して、クラウド化した場合、1回トラブルが起きると修復に時間を要するため、オンプレミスに戻そうという流れもある。今後の流れの中で検討してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回以降の会議開催予定日の案内を行った。 第5回：令和6年3月18日（月）午後3時 （最終的な答申案、基本計画案の最終確認を行う予定） ・ 委員報酬に関する源泉徴収票の案内を行った。 ・ 本日いただいた意見は、基本計画だけでなく、今後の設計や施設の運用等の参考にしたい旨を説明した。
<p>事務局</p>	<p>5 閉会 閉会を宣言した。</p>

署名： 会長
